

「中部地域半導体人材育成等連絡協議会（仮称）」に係る事前会合
議 事 要 旨

【会合概要】

日時：令和5年1月20日（金）14:00～17:00

場所：AP名古屋（愛知県名古屋市中村区名駅4-10-25 名駅 IMAI ビル7階 ルームL）

参加：＜産＞（株）デンソー、イビデン（株）、ウェスタンデジタル（同）、キオクシア（株）、ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン（株）、タワーパートナーズセミコンダクター（株）、加賀東芝エレクトロニクス（株）、東芝デバイス&ストレージ（株）

＜学＞（大）東海国立大学機構名古屋大学、（大）名古屋工業大学、（大）豊橋技術科学大学、（学）トヨタ学園豊田工業大学、（独）国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校、（大）三重大学、（独）国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校、（大）富山大学、（大）金沢大学、（学）金沢工業大学

＜官（オブザーバー）＞愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県

＜官＞経済産業省、経済産業省中部経済産業局（事務局）

※順不同。オンラインで参加した機関、事前に意見収集した機関含む。

議題：（１）政府の政策動向等

※経済産業本省より資料に基づき説明。

議題：（２）事務局説明

※事務局より資料に基づき説明。

議題：（３）各参加機関からの発表

※各参加機関より作成資料に基づき説明。

議題：（４）意見交換

※協議事項毎に、事務局より資料に基づき説明した後に意見交換。

※事前会合に出席することができなかった機関からは、事前に意見を収集し、以下に掲載している。

＜協議事項１＞

○産の幹事機関は産を代表して語る必要があり、責任が重い。1社だけの意見では不安があるため、幹事機関は複数企業にしてはどうか。

○教育に関わる部分なので、例えば、学生が出先で問題や不具合に出くわした際に、どう対応するか、関係機関でどう調整するかを決めておくと、スムーズに歯車が回るのでは。

○半導体産業は、化学・理学、機械・ロボティクスなど、必要とされる学問範囲の裾野が非常に広いため、電気系だけでなく他の学科も含めて、どう半導体産業を志向する人材を増やすことができるかを考えていくことが重要。学部・学科横断的な取組ができると他地域にはないような取組になるのではないかと。

<協議事項 2>

- 個別に協業を進めていく場合、(体系的な半導体の人材育成にならず、) 内容に抜け漏れが生ずるのではないか。例えば九州地区で取り組んでいる既存のカリキュラムを参考する等しつつ、事務局と参加機関でどんな取組にするかを設定した上でニーズとシーズをマッチングする必要があるのでは。
- 半導体産業は可能性のある産業であり、将来的にはあらゆるものに半導体が搭載されるような、大きな世界観・夢を若者に見せていく取組が必要ではないか。
- 企業の強みを活かして、メモリ、パワー、アナログなど、各種の半導体について学ぶことができるようにすると、他では学ぶことができない講義になる。それを動画にして配信するなどして、各教育機関にてアラカルトで取り入れて教育することができるとよいのではないか。

<協議事項 3>

- この枠組みの中で企画をすると、開催に関わる費用が出る等の措置があれば、多くの参加機関がそこに乗ってきて取組が活発になるのではないか。予算が措置されることが望ましい。
- ニーズやシーズをリスト化して、今まで接点のなかった機関の情報を知ることの確認できることはメリットが大きい。ただし、大学としても予算がなければ活動することができない。「こういう説明会を開催したら人が沢山集まった」等の情報交換や、予算措置などの情報については、本協議会において是非いただきたい。
- 今回の半導体の取組がラストチャンス、そして一番重要なのは人材育成にかかっていると言われている。その上で、地域毎のフレームワークを作る意義はあるが、その中で、予算がないと本気度をもった人材育成には取り組めない。是非とも、人材育成が第一だということに対して、きちんとした予算を付けていただきたい。

<協議事項 4>

- 具体的な活動として、合同企業説明会を考えると、具体的にどの時期に実施するのが分かりにくい。学生から見たらどの時期が一番敏感か等の情報は企業としては不明。そうした時期をマイルストーンとして設定し、逆算しつつ、取組を検討するようなことができれば良い。
- サマーインターンは講義の開講期間中では実施しておらず、夏休みの8月～9月であれば可能。研究開発の話を聞けたり、企業のクリーンルームを見ることができると学生もすごく刺激を受ける。合同セミナーで言えば、12月ぐらいが良い。
- 大学の試験期間等を配慮する必要もあり、連絡協議会（第4回）の開催時期は1月よりは12月ぐらいの方がいいのではと思う。
- 次年度の講義に盛り込むには、1月には教育内容がある程度固まっている必要がある。従って、ニーズリストの共有を受けて協業案件の組成をするのに必要な時間を考えると、ニーズリストを共有する連絡協議会（第4回）のタイミングは、もう1～2か月早く開催する必要があるのではないか。

<協議事項 5>

- 学士・修士を念頭に置いた話がメインとなっているが、博士人材に対してどれだけのニーズがあるのかは、各大学ではかなり興味があるのでは。

- 半導体業界ではどういう素養を持っている人が活躍しているか調査し、人材要件を整理してもらえるとありがたい。それをパンフレット等のコンテンツにすることができれば、電気系以外の分野の学生にも半導体業界への就職が選択肢になりえることを訴求することができるのではないかな。
- 半導体産業は裾野が広いため、中部地域のものづくりの全体の底上げの観点からも、川下～川上のサプライチェーンの情報を整理するとよいのではないかな。

総括・結論

「中部地域半導体人材育成等連絡協議会」を設置することとし、第1回を3月に開催することに決定した。

以上